



〈2025年 針尾 三九郎〉

鉢盛おろし

『つなぐ』

歳を重ねると一年経つのがとても早く感じます。ついこの間お正月だったのに、もう新しい一年が始まりました。子どもの頃、お正月が来る、そう思うだけで何だか気持ちが踊り、故郷で過ごしたお正月を今でも懐かしく思い出します。

そんなワクワクを感じさせる新年の風物詩の一つに「三九郎」があります。正月に飾りつけた松飾りやダルマなどを子どもたちが各家庭を回って集め、大きなやぐらに積み上げ、無病息災を願ってお焚き上げをします。家族みんなで作った色とりどりの繭玉を火で炙って焼いて食べるのが楽しみでした。この地域でも「三九郎」は昔から子どもたちの行事として受け継がれてきました。しかし少子化や時代の変化の影響を受け、それも失われつつあります。

「何とか残せないものか。」そんな思いからボランティアが立ち上がった地区があります。

昨年、近隣の地区が集まり三九郎が行われました。初めて経験する子どもたち、久しぶりに準備にあたる大人たち。大勢の方が新年の行事に触れ、子どもたちにとっては思い出深い一日となったと思います。子どもの頃の体験はその印象が強ければ強いほど、ずっと覚えていきます。そして大人になってから「そういうことだったのか」と理解することもあるかもしれません。

「伝統は守るものではなくつなぐもの。」新しい時代が流れても、今日まで受け継がれてきた習わしや大切なことは未来につないでいく。

そのために今の私には何ができるのでしょうか。

より多くの地域活動に参加し、様々な人の声を聞き、そして学び、館報編集委員としてこの館報で表現していくこと。地域に寄り添い、温かみのある館報を皆さんにお届けできるよう取り組んでいくことだと思っています。本年もたくさんさんの声をお聞かせください。宜しくお願い致します。

皆様にとって幸多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

K・S

謹賀新年



公民館長
柳沢 明

新年明けましておめでとうございます。
ございます。

皆様におかれましては、ご家族お揃いで穏やかなお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、大地震や線状降水帯による豪雨などの自然災害が続き、住民生活に与える影響が大きくなっています。



教育長
百瀬 司郎

新年明けましておめでとうございます。
ございます。

皆様におかれましては、穏やかなお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。年頭に当たり、教育委員会を代表して謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は元旦に発生した能登半島地震をはじめ台風などに

朝日村においても、夏場の深刻な水不足により節水の協力が毎日のように告知放送で流れていましたがあまり効果がなかったようです。

公民館事業を振り返ってみますと、5月に行いました「長寿を祝う会」では5年ぶりに対面形式での開催となりましたが、コロナ禍での中断・縮小の影響を受け、参加者が少なく反省点が多く出され、見直しが必要になっています。

「地区対抗野球大会」から、野球をやりたい人達がチームよる水害も多く、被災された地域の皆様には心よりお見舞いを申し上げます。今年は、穏やかでよい年になるよう願わずにはいられません。

コロナ禍を過ぎ、公民館行事もほぼ以前のように復活しました。皆様方のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

八月のお夏まつりは、若い世代のMCをはじめそのアイデアを生かした催しや、子どもたちの活躍によって、昨年以上の来場客で盛り上がった夏の夜にいただきました。

を作り参加出来る「盆野球大会」に名称を変えて臨んだ大会でしたが、大会前日からの雨降りの影響でグラウンドコンディションが悪く、苦渋の思いにて中止とさせていただきます。大変残念でした。

そのほかの公民館事業は、住民の皆様のご理解とご協力をいただきまして順調に取り行うことが出来ました。本年も引き続きよろしくお願いいたします。

現在、「朝日村中央公民館・周辺施設のあり方検討委員

盆野球大会ですが、今年から地区対抗を廃し村内の方でしたらどなたでもチームを作って参加できる形になり、六チームのエントリーがありました。残念ながら台風による雨で中止となりました。今後の大会の盛り上がりに期待するところです。

十月の体育祭（スポーツ・フェスティバル）では初めて好天に恵まれ外競技が開催されました。野球・サッカー・グランドゴルフ・テニス等の種目に集まる皆さんには屋外

会」が開催されています。中央公民館を含め周辺施設の老朽化に伴い、周辺施設全体としてのあり方として「コンパクトにまとめた村の拠点を整備する」を目的に検討が進められています。村民の「集い」の場になることを期待します。

結びに、皆さまの益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

スポーツを存分に楽しんでいただくことができました。

十一月の文化祭は、初めて「A祭り」と同日同会場での開催となり、双方ともに大勢の皆さんの参加で賑わいました。

今年もやりたいことができ公民館、集い学べる楽しい公民館を目ざして参りますので、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

結びになりますが、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

館報編集委員研修会

昨年の11月13日(水) 午後7時から中央公民館で、講師の先生をお招きして、プロの上手な原稿の作り方の研修会を行いました。

参加メンバーは、公民館館長、副館長、館報編集委員の10名でお話を伺いました。

講師の先生は、過去に朝日村を担当されていた、市民タイムスの塩尻支社報道課の小坂功さんにお越しいただきました。

研修会は、1時間の短い時間でしたが、小坂先生のお話は、本物の記者さんの実体験も多く上手な取材の仕方、使いやすい取材道具や記事の場所による写真の撮り方、読者の読みやすい文章、わかりやすくコンパクトに書く事、基本は、「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「なぜ」「どのように」の6要素だそうです。

編集委員は、文章を書く事が仕事ですが、皆素人のため文章の作り方に疑問があり、企画会議のたびに悩みがありました。先輩方から作り方のアドバイスや決まり事は聞いていましたが疑問だらけでした。(文章作りの上手な編集委員もいます)

今回のお話を聞いてとても参考になる楽しいお話を伺っている事が出来ました。

個人的な事ですが、今までは、学校の作文を作るような感覚で個人的な感

想多めの記事を書いていましたが、これからは、いただいた参考資料を基に読みやすい記事を書いていこうと思います。(プロではないので、多少変わった文章も入れて行こうと思います。)



研修会の様子

他の編集委員の感想

★プロの記者の方から取材前の準備や心得など、館報の編集に役に立つお話を聞くことができて、大変、参考になりました。特に、毎年同じ行事等を記事として扱ったとしても、それはその時々々の出来事を記録しているということ、それを「館報」として残していくことは地域の歴史の記

録となる」というお話は、とても印象に残りました。

★公民館報の役割を今一度確認し、編集委員一丸となって発行していきたい。

★公民館報は、村や地域の歴史になるという言葉がとても印象的でした。そしてその歴史に関わっているのだと思うと、委員として襟を正してゆかねば…とも感じました。

★取材に当たった際の準備や取材方法、実際の記事の書き方など実践的な技術や心構えについての講義もさることながら、「毎年同じようなことが繰り返される記事であっても、それはその時々々の地域の営みの記録であり、長く積み重ねること、それは地域の歴史の記録になる」という言葉が印象的でした。朝日村に住む人々がいつか『かつての館報』を目にしたときに、「あー、あの時は…」と感慨にふけることができるような、そんな館報を作ることができれば、と感じました。

★記事を書く際、分かりやすく簡潔な原稿を短時間で書くための情報整理力や、言葉一つで読者の気持ちを惹きつける文章力も大切であると学びました。

★編集委員になって1年目に参考になる話を色々聞けたと思う。今後の記事作りに少しでも活かしたい。

朝日村中央公民館・ 周辺施設のあり方を検討しています

将来の人口減少・少子高齢化が予測され、公共施設等の利用需要の変化や維持管理費用の増大が予想されます。公共施設等総合管理計画及び公共施設個別施設計画を踏まえて施設の更新、統廃合、長寿命化等のマネジメントが必要となっています。

朝日村中央公民館周辺施設は、昭和48年以降4施設（トレーニングセンター、わくわく館、マルチメディアセンター、健康センター）が近接して整備されましたが、築50年以上となる中央公民館をはじめ複数の施設で老朽化が進み、喫緊の対応が求められているものもあります。また、施設によっては、機能と建築が合わず使いにくい、バリアフリーではない、快適性等に欠け利用率が低下している、分散し管理運営の効率が良くないなど多くの課題を抱えています。

そこで、村では中央公民館とその周辺施設の今後のあり方について検討するため、令和6年9月に村民主体の「朝日村中央公民館・周辺施設のあり方検討委員会」を立ち上げ、基本構想・基本計画を作成しています。

検討委員会は既に4回行われ、11月24日(日)午前は中学生、午後は一般村民を対象にワークショップが中央

公民館で行われました。

中高生のワークショップは「あったらいいな！ひろばのイメージを描こう！」をテーマに8人が参加し、最初に周辺施設を歩いて回り、今の施設のいいところ、変えてほしいところをグループワークで出し合いました。用事がないと入りにくい、誰が使えるかわかりにくい、暗いイメージ等の意見が出ていました。



周辺施設散策

続いて、複合施設を想定しアイデアを出し合いました。自転車を止める駐輪場がほしい、中学生に身近な場所、長期休みの利用やわくわく館の中高生版といった中高生が気軽に遊べる場所、ひとりでもみんなでも居られる場所であってほしい等の意見が出ました。

村民の方からいただいた貴重な意見をできる限り計画に反映させ、パブリックコメントを実施したうえで、基本構想・基本計画を策定します。



グループ発表の様子



グループワークの様子

朝日小学校開校 150周年記念式典

去る11月16日(土)、朝日小学校体育館にて『朝日小学校開校150周年記念式典』が挙行されました。

式典は3部構成となっていて、第1部の記念式典では式が肅々と進められる中で黒田敏樹校長先生から、これまでの朝日小の卒業生が9024名であることや、そうした朝日小の歴史に思いを馳せながら、伝統ある朝日小の絆を未来につなげていこうという話がありました。

また、記念品として村内の木工作家が一つ一つ心を込めて製作した『カラマツ箸と箸箱』の目録が児童を代表して児童会長に手渡されました。

第2部は『感謝そして未来へ』と題して、在校生による発表が行われました。朝日小の昔と今を児童によるコミカルな寸劇で表現したり、全校児童が協力しての、第2部のタイトル通りに150年続く朝日小学校や、そこに携わった方々への感謝、そして未来への希望や決意がメッセージとして伝えられました。

第3部は朝日小学校の卒業生であり、現在声優、歌手として活躍されている羽多野渉さんによる記念講演会が開催されました。

演題は『コエとコトバのちから―再生と想像―』。ご自身の小学生

時代を振り返りながら、好きなことを好きでい続けることや、それを声と言葉で伝え続けることの大切さを児童にもわかりやすい言葉でお話してくださいました。

そして、『感謝の気持ちを忘れずに』という羽多野さんの提案で、最後は会場にいる全員での朝日小学校に対する「ありがとう」の掛け声で式典は無事に終了しました。



カラマツ箸と箸箱



記念品贈呈



寸劇の様子



記念講演会

サラダの里通信



西洗馬元旦マラソン

清々しい元旦の朝、西洗馬分館恒例の元旦マラソンが、今年も行われました。集合時間の午前7時30分頃には、参加者200人余りが集まり、おのおの生まれたての初日に向かってスタートしました。分館長の柳沢守利さんによりまずと「分館行事としては永い歴史を重ねており、大切な行事の一つです、家族揃って新年の門出を祝い、また絆をより深める。そしてこのマラソンを期に、それぞれが一年の目標を見定め、それに向かってスタートをきる、そんなきっかけとなつて欲しいですね。」と仰られておりました。晴天にも恵まれとても気持ちの良い元旦の朝でした。



子ども達の様子

地震模擬体験

12月14日(土)、朝日村役場駐車場において朝日村防災士会主催の地震模擬体験が朝日村、山形消防署の協力で行われました。

1年間のスケジュールで県内各地域を回っている県に1台の地震体験車が中信地区に来たタイミングで朝日村に来たとの事でした。

この車は過去の地震と今後起る可能性のある想定地震の合わせた11項目の中から1例を震度7まで体験できる装置を消防署の方が操作するというものです。

前半は集まった小学生の児童から4人1組で装置に上がり固定された机の前に立って掴まったところで揺れが始まります。

署員が選んだそれぞれの地震の揺れを体験しました。

体験した児童たちはみんな、怖かった！こんなに揺れるなんて！と感想を話してくれました。終わった児童達には会が用意した温かいポタージュが振る舞われて暖まっています。後半は駐車場で行われた鰻販売の鰻を買いに訪れた方達やコンビニへ買い物に来た方、村の消防団の会議で役場に来た幹部の人たちなど60人ほどの方々が体験されました。

自分自身2通りの揺れを体験しましたが、固定された机を離したら立つてはいられない上下左右の激しい揺れでした。

約1年前に能登地震があり、今後も大きな地震が来ると予想されている現在、村内も含めどこで遭遇するか分かりません。建物の補強や食料、生活用品の備蓄などの大切さはもちろんですが、この大きな揺れを模擬とはいえない体験出来たのは防災を考える上で大切な経験になりました。

代表の横山吉美さんは「子どもたちの経験がとても大切な事、中学、高校生など若い人たちが村の防災の中心になってくれれば嬉しい」と話していました。

5月から活動を始めた防災士会ですが代表を含めて14人で活動されています。うち10人が防災士で他の方も資格取得を目指しているとの事。村の防災士会の特徴としては職業が多岐にわたる事、女性の防災士の割合が他の地域より多いとの事でした。

朝日村では防災士資格取得に係る受講料を最高4万円まで補助しています。



地震体験の様子



ぽっこりお腹改善!! 自重で全身トレーニング



女性向け講座

講座には、20代から50代の幅広い年代の方が参加され、それぞれが自分の限界に挑戦していました。この講座のほか、女性を対象に、「二の腕に効く!! らくらくエクササイズ講座」が開催されており、こちらにも大勢の方が参加されていました。公民館では、文化講座や運動講座などたくさんの方の講座を開催していますので、気になる講座を見つけたら、お気軽に参加してみたいかがでしょうか? 新しい発見があるかもしれませんよ。

1回目は、音楽に合わせて次々とトレーニングをこなしていく「オンザビート・レッスン」を行いました。下半身を鍛えるスクワットやランジ、お腹を引き締める腹筋やツイストカール、上半身を鍛える腕立て伏せなどを音楽に合わせて行いました。音楽に合わせてトレーニングをすることで、自然とトレーニングの回数を増やすことができるということです。どのトレーニングもとても負荷がかかるもので、運動不足の私は、筋肉痛が1週間近くも続きました。2回目は、お腹を凹ませたり膨らませたりする動きで体幹を鍛えるドロイーと呼ばれるトレーニングを中心に行いました。講師からは、お腹がぽっこり出てしまう要因は2つあり、1つは反り腰によるもの、もう1つは猫背によるものがあると説明を受けました。どちらも、日頃の姿勢を意識することで改善できるということです。

令和6年11月19日(火)、12月12日(木)の2回にわたり、スポーツクラブ・ルネサンス松本(渚ライフサイト)から講師をお招きし、トレーニングセンター・アリーナにて男性向けの「ぽっこりお腹改善!! 自重で全身トレーニング講座」が行われました。自重トレーニングとは、自分自身の体重を負荷にして行うトレーニングのことです。



男性向け講座

あさひ保育園餅つき会

12月26日(木)、あさひ保育園で年末恒例の餅つき会が行われました。きりん組、ぱんだ組、うさぎ組の園児のほか、村議会から、社会文教委員の中村文映議員、清澤あゆみ議員、小林弘之議員、羽多野美映議員が参加しました。ぱんだ組、うさぎ組の園児が見守るなか、きりん組の園児が杵を手に餅をついていました。園児に感想を聞くと、「たのしかった」と、とてもいい表情を浮かべておりました。年末に行う餅つきは、お正月に年神様をお迎えし、幸福をもたらしてくれるよう祈願する行事とされています。2025年も幸せに、元氣いっぱい度過ごして、すくすくと大きくなれ!!



餅つきの様子



興味津々の園児

窓口情報

※ご家族の了承を得て記載しています。

おめでた

地区名	氏名	月日	父	母
下洗馬	刈田 凜	1・4	義紀	ころ

おくやみ

地区名	氏名	年齢	世帯主
下古見	上條 安美	61	上條 宗実
南 上	齊藤 勝則	79	本人
南 下	齊藤 敬子	90	齊藤 滋
御道開渡	齊藤 正成	67	本人
御馬越	栗津原 徳	90	本人
御馬越	齊藤 ユキエ	90	本人
小野沢	小林 菊野	97	小林 智潔
上組	熊谷 昭吾	94	本人
中組	三村 武	80	本人
中組	小林 弘政	87	本人
中組	三村 美枝子	89	三村 公人
下洗馬	古條 賢司	57	古條 慶子
原新田	上條 春喜	76	本人
原新田	曾根原 誠	90	本人

※訂正

11月20日発行 No.478 P.5 シリーズ発見！
朝日人②にて訂正がありましたのでお詫びします。
誤) 山本町 正) 山元町

エッセイ

新しい年となり、朝日村に引っ越してきて12年目のお正月、今年で農家になって10年の節目の年となります。何の縁故もなかった朝日村ですが、人に恵まれ、土地に恵まれ、楽しい毎日が送れていることを本当に感謝しています。過ぎてしまえばあつという間の日々でしたが、改めて振り返ってみると色んな変化があったなあとしみじみ思います。例えば天候。12年前は避暑地のようだった朝日村も最近では冷房がないといられないような気候になってきました。農家としては天候には敏感にならざるを得ませんが、季節に応じて作付け出来る作物も変化してきており、種

まきの時期も毎年同じではなく、今まで以上に天候を見ての工夫が必要になってきています。また個人的なことでは、農家になり、仲間と味噌・醤油づくりを始め、猫を飼い、鶏を飼い、三味線を習い、12年前には思いもよらなかったことばかりです。さて、今年は一体どんな1年になるでしょうか。色んな変化もあるでしょう。ですが流れに逆らわず、軽やかに、柔軟に、そして些細なことに、も関心を払って日々を過ごせたらと思っています。

お台所エッセイ

165 舟生 美佳
(御馬越)

みんなのアトリエ



「朝日小学校の昇降口」

朝日小学校 6年1組
清澤 想真さん

昇降口の窓に後ろの景色の影が写るように工夫しました。



「ザ・ろうかーおもいで道」

朝日小学校 6年1組

山本 陽菜さん

廊下の模様を色々探してできるだけ正確にかきました。



「いつも見た場所」

朝日小学校 6年1組

齊藤 果歩さん

工夫したところは、奥行きを出すために影をつくったところです。